

北杜市地域公共交通活性化協議会
(平成29年度第1回)
会 議 録

北杜市企画部企画課

会 議 録

会 議 名：北杜市地域公共交通活性化協議会（平成29年度第1回）

開催日時：平成29年6月30日（金） 午後2時～午後4時

開催場所：北杜市役所 西会議室

- 会議次第：1 開会
2 会長選出
3 会長あいさつ
4 自己紹介
5 「地域公共交通会議」と「地域公共交通活性化協議会」について
6 協議事項
（1）北杜市地域公共交通網形成経計画の策定について
（2）その他について
7 その他
他市町村の地域公共交通に関する合意形成について
8 閉会

会議資料：会議次第・資料1～3

会議の公開・非公開の別（非公開の場合はその理由）：公開

傍聴人の数（公開した場合）：16人

出席委員：岩下達也、雨宮正英（代理出席）、中谷晃（代理出席）、西岡信、植松三文、大塚秀雄、原功三、小林治士、鈴木一男（代理出席）、中込淳、田中満、中村慎吾（代理出席）、深澤宏之、若尾哲夫（代理出席）、利根川昇、三澤完広、浅川修一、佐々木邦明、菊原忍、赤羽久

欠席委員：志村宏文、篠原公一、大黒薫、小林隆次、小林忠雄

事務局：濱井和博部長、中山晃彦課長、土屋雅光担当リーダー、寺島直担当

会議録署名委員：原功三、小林治士

(会長選出)

北杜市社会福祉協議会 会長 利根川昇氏を選出。

(会長あいさつ)

生活する上で「移動」は必須であり、交通弱者（高齢者）の移動は、現在全国の自治体で頭を悩ませている課題である。

協議会の意見をまとめて、みんなで良い計画を作成していきたい。

(「地域公共交通会議」と「地域公共交通活性化協議会」について)(事務局)

「地域公共交通会議」と「地域公共交通活性化協議会」の違いについて説明。(資料1)

(協議事項)

(1) 北杜市地域公共交通網形成計画について(事務局)

「北杜市地域公共交通網形成計画」について説明。(資料2)

(「公共交通網形成計画」作成の背景)

合併後、デマンドバスの実証運行を行うなど、様々な取り組みを行ってきたが、デマンドバスは廃止し、現行の路線バスについて、住民からの苦情等もあり、見直しが必要な状況である。

そこで、「地域にとって望ましい公共交通」とは何かを明らかにするため、北杜市の交通の現況と移動の需要を明確にした上で、「地域公共交通網形成計画」の策定を目指す。

(現在の状況)

現在、市民の移動実態を把握する調査を実施中である。

行政だけで計画策定を進めるのではなく、事業者や住民と協力して進めることが大事である。

住民にとっても、自ら計画の策定に関わることで、利用しやすい公共交通に繋がると考えている。

(質疑応答)

委員

路線によって乗継ぎが便利な路線とそうでない路線がある。

運行時刻については、どのように決めているのか

事務局

時刻表は、実車による実測値を測定した上で、市と事業者が相談して決定している。

委員

多額の税金をかけてバスを運行している。

もっと利用してもらえるように広報すべきである。

行政と市民と協力して、公共交通を盛り上げていくべきである。

事務局

バスの路線は、合併前の旧町村の路線をほぼ引き継いだもの。

新たな集落、住宅地の形成もあり、地区によって便利さに差が出てきている。

昨年度、車両の小型化や路線の改編も行ったが、集落が広範囲に散在しているため、すべての地区で充実させることは難しい状況である。

今回作成する「網形成計画」で、その点も検討していきたい。

バス利用料による収入や補助金もあるため、市民バスにかかる経費は約1億3千万円ほど。

これは「小中学校の補助教員の雇用費用」や「子ども・高齢者の各種ワクチン摂取補助」と同じ規模である。

かかる経費の周知方法については、協議会で相談して広報もしていきたい。

委員

質問は、市民一人ひとりの公共交通に対する認識を持ってもらいたいという趣旨であり、税金を投入することは必要であると考えている。

委員

平成27年度1年間の延べ利用人数、路線毎の利用人数は何人か。

事務局

民間バスも含めた北杜市の延べバス利用は、24万0,490人、「市民バス」のみは、12万4,110人となっている。

委員

当日に資料を渡されて「意見を」と言われても困るため、事前に資料を配布してほしい。

事務局

次回以降、通知時に事前に資料を配布したい。

委員

アンケートの対象者(3,000世帯)について、ふだん市民バス(公共交通)を利用していない人に意見を聞いても、実態が把握できないのではないかと。

交通弱者と言われる人々に聞くべきではないかと。

事務局

現行の公共交通の利用状況、今後の利用意向などを統計的に調査しているものである。

また、ワークショップの開催、市への直接的な意見募集などの機会を設け、バスの利用に関わらず幅広く意見を吸い上げたいと考えている。

委員

公共交通活性化協議会の委員に何を期待されているのか。

事務局

今回の会議は、「北杜市公共交通網形成計画」策定についての説明を目的としている。
次回以降、計画の内容について具体的に協議していきたい。

委員

計画を策定するためには、PDCAが重要である。
平成24年からのデマンドバスの実証運行の際に、Check・Actionは行なわれていたのか。
今後、これまでの事業の評価も含めて説明を行なってほしい。

事務局

デマンドバスの実証運行については、結果を評価した上で前を向いて進んできた。
地域によって、デマンドバスが有効な地域、路線バスや小型タクシーが有効な地域など、それぞれ違うため、この計画づくりに合わせて検討していきたいと考えている。
今回の計画では、「地域特性に応じた多様な交通サービスの組み合わせ」や「住民の協力を含む関係者の連携」を取り入れていきたい。

委員

「網形成計画」の「上位計画・関連計画」とは、具体的にはどんな計画か。

事務局

「第2次北杜市総合計画」や「北杜市まちづくり計画」、「北杜市総合戦略」などが挙げられる。
これらの計画との整合性を図っていく。

委員

資料に「観光」というキーワードが見られないが、観光地の多い北杜市で、その対応はどのように考えているのか。

事務局

市民の生活の足としての地域公共交通とは別に、観光2次交通という位置づけで「観光客の足」の確保についても調査・解析・研究を進めていく。

(2) その他について (事務局)

現況把握調査、今後のスケジュールについて説明。(資料2)

(質疑応答)

委員

住民意見交換会はどれくらいの頻度、どの範囲で行なう予定か。

事務局

回数・エリアについては、現在検討中である。
町単位ではなく、地域単位で行なう予定である。

7 その他（事務局）

他市町村の地域公共交通に関する合意形成について

（質疑応答）

委員

現行の路線は、利用が順調な路線とそうでない路線があるが、「ウーバー」や「マイナンバー登録制度」など、他の仕組みの導入も考えているか。

事務局

「ウーバー」などの配車システムについては、京丹後市の丹後町（交通空白地）や東京などで実施されているが、法令の関係もあり、日本で浸透するのは時間がかかると思われる。

その他、ドライバーの人手不足を担保するための「自動運転」など、担当者レベルではあるが、中長期的な地域公共交通の確保に向けて日々研究を行なっている。

委員

交通弱者の短距離間移動のためのシステムを考えてもいいのではないか。

事務局

様々な手法が考えられるため、この協議会で協議しながら計画を練っていきたい。

委員

緑ナンバーについては、ある程度、訓練・教育されており、責任の所在も明らかなので問題が少ないが、「ライドシェア」や「ウーバー」は、「車両整備」「運転技術」等に課題があり、国土交通省としては認められない状況である。

「自家用有償運送」という手法があるが、導入すると緑ナンバーの事業者はその地域を走れなくなってしまうため、最後の手段と考えている。

どの手法がベストなのかを考えていくことが、今回の協議会の目的でもあると思う。

この地域に何が必要であるか、この1年を通して話し合っていければと考える。

（資料3を使用し、他市町村の地域公共交通の事例を説明。）

8 閉会

以上

署名委員

署名委員
